科目名	社会科・地歴科教育法Ａ		科目コード	W61015	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
			科目ナンバリング	T-TLS03-00.NO	時　間	30時間	学年		学期	
区分	教職科目	必修	担当者名	石戸谷　繁 (実務経験のある教員)			授業形態	講義		単独
授業の概要等	〔授業の主旨〕 はじめに社会科教育の意義、成立と展開を学ぶ。そのうえで学習指導要領の改訂に関して、その趣旨とともに中学校社会科・高校地理歴史科の目標と内容を理解する。後半は、地理的分野の学習の主要テーマに関して、授業作りの観点から具体的な指導と教材化の方法を学ぶ。また、地元弘前をフィールドとして地域探究学習を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマシーポリシーの2および3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。									
到達目標	①社会科の意義・成立と展開、学習指導要領に関する改訂の趣旨、中学校社会科・高校地歴科の目標と内容について学ぶ。 ②地理科目の主要テーマに関して、生徒に興味関心と思考力を育む授業つくりの実践的指導力を身につける。　③地元弘前をフィールドとして探究的な学習の指導力を身につける。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	社会科とは何か(1)	社会科教育の本質	
第2回	〃　(2)	社会科の成立と展開①　戦前の社会科的教育の歴史	
第3回	〃　(3)	社会科の成立と展開②　戦後の社会科教育の歴史	
第4回	〃　(4)	学習指導要領の改訂①　学習指導要領のめざすもの	
第5回	〃　(5)	学習指導要領の改訂②　社会科の教育課程（小・中・高）、社会科改善の基本方針	
第6回	〃　(6)	中学校社会科の目標と内容、高等学校地歴科の目標と内容①	
第7回	〃　(7)	高等学校地歴科の目標と内容②	
第8回	地理の授業づくり(1)	興味関心・思考力を育む指導①　地図と地理情報システムについて	
第9回	〃　(2)	〃　②　生活文化の多様性	
第10回	〃　(3)	〃　③　ＳＤＧｓについて	
第11回	地域探究(1)	地域調査①　課題を設定し計画を立案する	グループワーク
第12回	〃　(2)	〃　②　実施　実際に地域を調べる	フィールドワーク
第13回	〃　(3)	〃　③　〃	フィールドワーク
第14回	〃　(4)	〃　④　分析　調べたことを分析しまとめる	グループワーク
第15回	〃　(5)	〃　⑤　発表　まとめたものを発表する	プレゼンテーション

評価方法及び評価基準	地域調査の発表報告（４０点）、小テスト（２０点）、レポート（２０点）、授業参加（２０点）をもとに総合的に評価する。
課題等	地域探究などのレポート
事前事後学修	地域探究の準備、小テストへの準備、配付資料による授業内容の復習を事前・事後学修とします。
教材教科書参考書	『中学校学習指導要領解説　社会編』東洋館出版社　ISBN　978-4-491-03471-3、『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』東洋館出版社　ISBN　B978-4-491-03641-0
留意点	タイムリーな世の中の出来事を授業に活用することもあるので、多少授業の順番を入れ替えることがある。

科目名	社会科・地歴科教育法Ｂ		科目コード	W61016	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
			科目ナンバリング	T-TLS03-01.NO	時　間	30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	石戸谷　繁 （実務経験のある教員）			授業形態	講義		単独
授業の概要等	〔授業の主旨〕 前半は、前期の社会科・地歴科教育法Aにおける社会科の理論と学習指導要領の学習を踏まえたうえで、歴史的分野の学習の主要テーマに関して、授業作りの観点から具体的な指導と教材化の方法を学ぶ。後半は、参加者各自が興味関心をもつ単元に関して、学習指導案を作成して模擬授業を行い、参加者で授業検討を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマシーポリシーの2および3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。									
到達目標	①地理・歴史科目の主要テーマに関して、生徒に興味関心と思考力を育む授業つくりの実践的指導力を身につける。　②学習指導案を作成し、模擬授業を経験することにより、実践的指導力を身につける。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	地理の授業づくり(4)	興味関心・思考力を育む指導④　自然災害と防災について	
第2回	〃　(5)	〃　⑤　地域の教材化	
第3回	歴史の授業づくり(1)	歴史学習の意味と方法	
第4回	〃　(2)	興味関心・思考力を育む指導①　時代の取り扱い	
第5回	〃　(3)	〃　②　実物教育、資料、新聞等の活用	
第6回	〃　(4)	〃　③　討論の活用	ディスカッション
第7回	〃　(5)	〃　④　人物学習	
第8回	〃　(6)	〃　⑤　「戦争と平和」について考える	
第9回	〃　(7)	〃　⑥　地域の歴史・文化財の教材化	
第10回	学習指導の計画・実施・評価(1)	学習指導案作成の基本的考え方と留意点	
第11回	〃　(2)	指導案の作成と検討	
第12回	〃　(3)	模擬授業の実施と協議①　Ａ班	模擬授業・ディスカッション
第13回	〃　(4)	〃　②　Ｂ班	模擬授業・ディスカッション
第14回	〃　(5)	〃　③　Ｃ班	模擬授業・ディスカッション
第15回	まとめ	社会科・地歴科の教師に求められるもの	

評価方法及び評価基準	模擬授業・指導案（４０点）、小テスト（２０点）、レポート（２０点）、授業参加（２０点）をもとに総合的に評価する。
課題等	学習指導案・レポートの提出
事前事後学修	模擬授業の準備、小テストへの準備、配付資料による授業内容の復習を事前・事後学修とします。
教材教科書参考書	『中学校学習指導要領解説　社会編』東洋館出版社　ISBN　978-4-491-03471-3、『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』東洋館出版社　ISBN　B978-4-491-03641-0
留意点	タイムリーな世の中の出来事を授業に活用することもあるので、多少授業の順番を入れ替えることがある。

科目名	社会科・公民科教育法Ａ		科目コード	W61017	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	T-TLS03-02.NO	時　間	30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	南澤　英夫 (実務経験のある教員)			授業形態	講義		単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 社会科・公民科の教育課程に占める位置・役割を確認した後、その歴史的展開を具体的な実践記録等を取り上げながら検討します。その後、社会科授業を巡る今日的課題を検討するとともに、現行および次期の学習指導要領に示された目標・内容構成を確認します。その上で、学習指導案の作成に取り組んでいきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの1に関連します。
到達目標	・中学校社会科および高等学校公民科の歴史的展開と理念、内容構成について理解を深める。 ・望ましい授業のあり方について自らの考えを深め、指導計画を立案することが出来る。 ・アクティブラーニングの方法について学び、授業に取り入れ、生徒の学びが進化するよう、計画、実施出来る。 ・社会事象に興味関心を持ち、様々な事象を「自分事」として考え、受け止めることが出来る。 ・理想の授業、理想の教師像をイメージし、それに近づける努力が出来る。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業全体の流れを概観しつつ、到達目標を確認する。 MicrosoftTeams　/ Googleclassroom　の利用方法を習得する。	講義 グループワーク
第2回	教育課程上の社会科・公民科の位置	小・中・高全体の教育課程における社会科および公民科の位置づけについて考察する。また、理想の授業・教師像について考察する。	講義 グループワーク
第3回	社会科の歴史	社会科の成立、初期社会科における経験主義的立場から系統主義立場への転換、高校社会科の解体と公民科が成立について考察する。	講義 グループワーク
第4回	社会科・公民科の今日的課題	社会科･公民科が直面する課題と21世紀型学力と社会科・公民科教育の方向性についてについて考察する。	講義 グループワーク
第5回	オンライン授業の現状と課題	コロナ禍における、オンライン授業のあり方について考察する。 特にICTを活用しながら、オンライン授業の課題を理解する。	講義 グループワーク
第6回	中学校社会科の目標と内容構成	実践事例を参考にしながら、中学校社会科における目標と内容の構成原理について理解する。	講義 グループワーク
第7回	高校公民科の目標と内容構成（１）	新科目「公共」について、成立の背景、その目標と内容の構成原理について理解する。	講義 グループワーク
第8回	高校公民科の目標と内容構成（２）	「政経」「倫理」について、その目標と内容の構成原理について理解する。	講義 グループワーク
第9回	学習指導案の様式と書き方	具体的な学習指導案をもとに単元指導案と本時指導案の書き方について学ぶ。	講義･演習 グループワーク
第10回	学習指導案の作成	前時の学習をもとに、具体的な学習指導案に取り組む。	講義･演習 グループワーク
第11回	単元指導計画の立案（１）	単元指導計画を立案し、単元指導案の作成を試みる。	講義･演習 グループワーク
第12回	単元指導計画の立案（２）	単元指導計画を立案し、単元指導案の作成を試みる。 ICTを活用し、指導案の発表を行う。	プレゼンテーション
第13回	教材研究の進め方（１）	単元指導･本時指導に向けての教材研究の深め方について理解し、教材研究を試みる。紙教材、映像教材、ICT教材の活用を習得する。	講義･演習 グループワーク
第14回	教材研究の進め方（２）	単元指導･本時指導に向けての教材研究の深め方について理解し、教材研究を試みる。ICTを活用し、指導案の発表を行う。	プレゼンテーション
第15回	まとめと試験	講義全体を振り返る、その上で試験を行う。	

評価方法及び評価基準	①平常点（20%）、②期末試験（50%）、③学習指導案（30%）によって総合的に評価します。②は社会科・公民科教育についての基本的な事項について理解、および望ましい授業のあり方について自らの考えが構築できているかを基準に評価します。③は学習指導案の体裁が整えられ、授業内容を理解し工夫されているのかを中心に評価します。
課題等	毎時間リフレクションシートを記入。次回の授業は記述内容を踏まえて進めます。
事前事後学修	事前事後学習（課題など）には約３時間程度要します。また、社会科・公民科の授業では時事的な問題が取り上げられることがあります。日頃から意識して、新聞やニュースで時事問題に触れるようにしてください。また、授業内で関心を持った新聞記事・ニュースについてのコメントをしてもらいます。
教材 教科書 参考書	【教科書】　「公民科教育と学校教育」　梅野正信　他　　三恵社　2021年　978-4-86693-367-2 【資　料】　　文部科学省　「中学校学習指導要領解説社会編」（平成29年度告示）　978-4491034713 【資　料】　　文部科学省　「高等学校学習指導要領解説公民科編」（平成30年度告示）978-4487286331
留意点	１　パソコンの準備をしてください。 ２　演習を中心に、実践的な授業です。課題も多くあります。 ３　社会の問題を自分事として考え、学びにとどまらず、自らの行動変容も求めます。 ４　授業への積極的な参加を期待します。

科目名	社会科・公民科教育法Ｂ		科目コード	W61018	単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
			科目ナンバリング	T-TLS03-03.NO	時　間	30時間	学年		学期	
区分	教職科目	必修	担当者名	南澤　英夫 (実務経験のある教員)			授業形態	講義		単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 社会科･公民科の授業記録の分析を通じて、授業の構成要素と指導のポイントについて理解を深めていきます。その後、「導入」、「説明」、「思考場面･資料操作場面」を各自で構想･展開する演習を行います。その中で、それぞれの特性と課題を把握した上で、最終的に模擬授業を実施していきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの1に関連します。
到達目標	・中学校社会科および高等学校公民科の授業・内容構成について理解を深める。 ・望ましい授業のあり方について自らの考えを深め、指導計画を立案し実践できる。 ・ICT教材やアクティブラーニングの方法について学び、授業に取り入れ、活発な学習活動を作り出せる。 ・社会事象に興味関心を持ち、様々な事象を「自分事」として考え、受け止めることが出来る。 ・理想の授業、理想の教師像をイメージ、それに近づける努力が出来る。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業全体の流れを概観しつつ、到達目標を確認する。 Googleclassroom（JamBosrd / Forms など）の利用方法を習得する。	講義・演習
第2回	社会科・公民科の授業分析	実践記録をもとに中学校社会科および高校公民科の授業分析を試みる。	講義・演習
第3回	社会科授業の構成要素	前時の授業分析を踏まえて、社会科・公民科の授業における構成要素について考察する。	講義・演習
第4回	授業の「導入」をつくる	授業構成要素のうち、導入について検討し、実際に導入場面の作成を試みる。 特に「発問」による導入の例を考える。	グループワーク ディスカッション
第5回	授業の「導入」を試みる	前時に作成した導入を模擬授業の形式で実際に行ってみる。 特にICTを活用した導入の例を考える。	グループワーク 模擬授業
第6回	授業における「説明」を構想する	授業の構成要素のうち、説明について検討し、実際に説明場面の作成を試みる。特にチョーク＆トークによる授業に取り組む。	グループワーク 模擬授業
第7回	授業における「説明」を試みる	前時に作成した説明場面を模擬授業の形式で実際に行ってみる。 特に生徒相互によるアクティブラーニングの形式で取り組む。	アクティブ ラーニング
第8回	「思考・資料操作場面」を構想する	授業構成要素のうち、思考・資料操作場面について検討し、実際に思考・資料操作場面の作成を試みる。	グループワーク ディスカッション
第9回	「思考・資料操作場面」を試みる	前時に作成した思考・資料操作場面を模擬授業の形式で実際に行い、資料活用の重要性、またその効果を理解する。	グループワーク 模擬授業
第10回	模擬授業と相互批評（１）中学地理	受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。 特に視聴覚教材を活用した授業に取り組み、その効果を理解する。	グループワーク 視聴覚教材活用
第11回	模擬授業と相互批評（２）中学歴史	受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。 特にICT教材をフルに活用した授業に取り組み、その効果を理解する。	グループワーク ICT活用
第12回	模擬授業と相互批評（３）中学公民	受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。 特にディベートを取り入れた授業に取り組み、その効果を理解する。	グループワーク ディベート
第13回	模擬授業と相互批評（４）高校公共	受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。 特にアクティブラーニングの授業に取り組み、その効果を理解する。	アクティブ ラーニング
第14回	模擬授業と相互批評（５）高校政経	受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。 特に大学入試（共通テスト）を意識した授業のあり方を学ぶ。	グループワーク ディスカッション
第15回	まとめ	講義全体を振り返り、社会科・公民科授業の在り方について考察を深める。また、理想の授業、教師像について考察する。	グループワーク ディスカッション

評価方法及び評価基準	①平常点（20%）、②演習（50%）、③学習指導案（30%）によって総合的に評価します。 ②は「導入」「説明」「思考・資料操作場面」についての演習および模擬授業を通じて、指導内容と指導技術の観点から評価します。③は演習や模擬授業を通じて発見した課題を修正し、より効果的な指導の行える指導案を作成することができているのかを中心に評価します。
課題等	「導入」、「説明」、「思考場面・資料操作場面」についての演習、及び模擬授業についてはリフレクションシートを記入してもらいます。記述内容については次回の授業でコメントし受講者全体で共有します。
事前事後学修	事前事後学習（課題など）には約３時間程度要します。「導入」、「説明」、「思考場面・資料操作場面」についての演習、及び模擬授業の準備は授業時間内では足りないため、各自で十分に準備し授業に臨むようにしてください。
教材 教科書 参考書	【教科書】　「公民科教育と学校教育」　梅野正信　他　　三恵社　2021年　978-4-86693-367-2 【資　料】　　文部科学省　「中学校学習指導要領解説社会編」（平成29年度告示）　978-4491034713 【資　料】　　文部科学省　「高等学校学習指導要領解説公民科編」（平成30年度告示）978-4487286331
留意点	１　パソコンまたはタブレットを使用します。 ２　演習を中心に、実践的な授業です。課題も多くあります。 ３　社会の問題を自分事として考え、学びにとどまらず、自らの行動変容も求めます。 ４　授業への積極的な参加を期待します。

科目名	教育の方法と技術 （社会・公民・地歴） 【2018年度以前入学生】	科目コード	W61010	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLS03-10.NO						
区分	教職科目　必修	担当者名	大谷　伸治			授業形態	講義		単独
授業の概要	〔授業の主旨〕 次期学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」とはどのような授業か、どうすれば創れるのか、体験編・理論編・教材研究編の３段階を通して考えを深めたうえで、実際に模擬授業をおこない、「教科の本質」をふまえた実践的な方法と技術を身に付ける。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの２，３及びカリキュラムポリシーの１と関連している。								
到達目標	学習指導要領を捉え返し、教科の本質をふまえ、子どもとともに「主体的・対話的で深い学び」を創る方法と技術の基礎を身に付ける。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	授業の概要、到達目標、全体の流れを説明する。 模擬授業の担当科目を話し合い、決定する。	
第2回	主体的な学びとは？（１）体験編	講義担当者が現場でおこなってきた授業実践を模擬的に体験し、「主体的な学び」とは何かを考える。	グループワークを含む
第3回	主体的な学びとは？（２）理論編	教科書の該当箇所を読んでくる。理論的な背景を理解したうえで、「主体的な学び」について議論し、考えを深める。	ディスカッション
第4回	主体的な学びとは？（３）教材研究編	模擬授業に向けた教材研究をおこない、「主体的な学び」を創るためのしかけや手立てを考える。	グループワーク
第5回	対話的な学びとは？（１）体験編	講義担当者が現場でおこなってきた授業実践を模擬的に体験し、「対話的な学び」とは何かを考える。	グループワークを含む
第6回	対話的な学びとは？（２）理論編	教科書の該当箇所を読んでくる。理論的な背景を理解したうえで、「対話的な学び」について議論し、考えを深める。	ディスカッション
第7回	対話的な学びとは？（３）教材研究編	模擬授業に向けた教材研究をおこない、「対話的な学び」を創るためのしかけや手立てを考える。	グループワーク
第8回	深い学びとは？（１）体験編	講義担当者が現場でおこなってきた授業実践を模擬的に体験し、「深い学び」とは何かを考える。	グループワークを含む
第9回	深い学びとは？（２）理論編	教科書の該当箇所を読んでくる。理論的な背景を理解したうえで、「深い学び」について議論し、考えを深める。	ディスカッション
第10回	深い学びとは？（３）教材研究編	模擬授業に向けた教材研究をおこない、「深い学び」を創るためのしかけや手立てを考える。	グループワーク
第11回	指導案と教材の完成	模擬授業に向けて作成してきた指導案と教材を完成させる。	グループワーク
第12回	模擬授業（１）地理	受講者による模擬授業をおこない、全員で省察検討会をおこなう。	プレゼンテーション ディスカッション
第13回	模擬授業（２）歴史	受講者による模擬授業をおこない、全員で省察検討会をおこなう。	プレゼンテーション ディスカッション
第14回	模擬授業（３）公民	受講者による模擬授業をおこない、全員で省察検討会をおこなう。	プレゼンテーション ディスカッション
第15回	まとめ	講義全体を振り返り、教科の本質をふまえ、子どもとともに創る「主体的・対話的で深い学び」の在り方について考察を深める。	ディスカッション

評価方法及び評価基準	試験は実施せず、下記の３点を合算して評価します ①授業への参加度：30点（リアクションペーパーの記述内容や議論への参加度を総合的に評価します） ②指導案＆模擬授業：50点（「主体的・対話的で深い学び」を創ることができたか、授業後の省察をもとに修正できたかを評価します） ③期末レポート：20点（講義の内容を理解し、授業観・教育観がどのように変容・深化したかを評価します）
課題等	毎回リアクションペーパーを書いてもらいます。次回の授業は記述内容をふまえて進めます。 指導案・期末レポートへのフィードバックは、後日メールにておこないます。
事前事後学修	①教材研究は授業時間内だけでは到底足りません。各自で精力的に文献調査やフィールドワークなどをおこない、指導案と教材の作成に励んでください。相談には随時応じます。　②理論編の講義の前には、教科書を必ず読んできてください。
教材 教科書 参考書	石井英真『授業づくりの深め方：「よい授業」をデザインするための5つのツボ』（ミネルヴァ書房、2020年） ISBN　978-4-623-08770-9
留意点	中学社会科と高校地歴・公民免許取得のための講義ですが、「教育の方法と技術」は校種や教科に限定されるものではありません。したがって、小学校や他教科の内容にも触れることがあります。

科目名	教職実践演習	科目コード 科目ナンバリング	W61019 T-TLPR4-01.NK	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	4年	開講学期	後期
区分	資格関係科目	担当者名	佐々木　正晴　立花　茂樹 松橋　俊輔　佐藤　萬昭			授業形態	演習		オムニバス
授業の概要等	〔授業の主旨〕 教員免許状の取得に必要となる教科に関する科目，教職に関する科目等を履修し終えた段階において，これらの知識・技能を総合して，学校において生じる諸問題に対処できる力を養う。その際，それぞれの場面において特に求められる力を確認すると同時に，教員として持たなければならない知識・技能・態度等が確実に習得されているかどうかを確認し，これまで習得した知識・技能・態度等の総合化を図る。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し，カリキュラムポリシーの2に関連している。								
到達目標	今まで大学で学んだことを踏まえ，教員として実務を行うことができる								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	オリエンテーション	これまでの学修を振り返る	担当：松橋
第2回	教育現場の問題	各自が実習中に感じた教育現場の問題点について報告する	
第3回	実践的問題と教育学研究の架橋 ①	第2回の発表内容を基に関心が近い者同士でグループを組み，関連する教育学論文を収集のうえ，解決策を考える	
第4回	実践的問題と教育学研究の架橋 ②	第3回で各グループがまとめた解決策について発表し，その是非についてクラス全体でディスカッションを行う	
第5回	教科指導の実際 ①	教科ごとに模擬授業を行う	担当：佐々木
第6回	教科指導の実際 ②	現職教員と共に模擬授業の総括を行う	
第7回	特別活動指導の実際	学級における話し合い活動の進め方をロールプレイングで考える	
第8回	学級経営の実際 ①	学級開きと最初の一週間の取組について構想を練る（全体発表）	担当：佐藤
第9回	学級経営の実際 ②		
第10回	生徒指導の実際 ①	いじめへの対応について考える（グループ討議・全体発表）	
第11回	生徒指導の実際 ②		
第12回	保護者との対応	多様化する保護者像の理解を図るとともに，教師の最大の理解者であり協力者である保護者との信頼関係の構築について，面談や電話応対時のかかわり方を通して考える。（グループ討議・発表）	担当：立花
第13回	個を生かす	一人一人の生徒は，それぞれの価値観に基づいて物事をとらえ，思考し，判断し，表現する存在であることを，1枚の写真のもつ情報やメッセージを読み取る，複数の写真をつなげて物語を構成するなどフォトランゲージの活動を通して問い直す。	
第14回	社会人の常識とマナー	社会人として知っておくべき常識やマナーを事例やロールプレイを通して確認し，4月からの社会人生活に備える。	
第15回	総括	・これまでの活動を通じて教師にとって必要なことを各自考え発表する ・教職履修ファイル「自己評価」欄の記入	担当：全員

評価方法及び評価基準	各担当者により出される課題：25点 x 4名
課題等	各担当者より適宜掲示にて指示する
事前事後学修	「教職履修ファイル」によるこれまでの学修成果の復習（各回60分）
教材 教科書 参考書	・「教職履修ファイル」 ・各受講者の免許種に対応した学習指導要領（最新版）及び同解説（最新版）
留意点	教職課程最後の科目となる。「教職履修ファイル」を基に，これまでの教職課程の内容及び教育実習の内容をよく振り返ったうえで受講すること。なお，本科目は不定期開講の集中講義となるため，日程については掲示板をよく確認すること。

科目名	教育実習(事前･事後の指導を含む)（中学）	科目コード	W61013	単位数 時　間	5単位 150時間	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	T-TLPR4-00.NK						
区分	資格関係科目	担当者名	佐々木　正晴・松橋　俊輔			授業形態	実習		オムニバス
授業の概要等	〔授業の主旨〕 〔キーワード：教育実習、現場体験〕 　中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では講義や現役教諭の講演を通して教育現場の理解を深め、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認する。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する								
到達目標	事前指導においては教育実習が支障なく進むよう留意事項を確認する。事後指導においては、教育実習での反省点を話し合い、教育現場および実習生の指導上の問題点について議論を行う。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	事前指導	教育実習の意義		第16回	実習	教育実習	
第2回	事前指導	教育実習における留意点		第17回	実習	教育実習	
第3回	事前指導	現役中学校教諭による講話		第18回	実習	教育実習	
第4回	実習	教育実習		第19回	実習	教育実習	
第5回	実習	教育実習		第20回	実習	教育実習	
第6回	実習	教育実習		第21回	実習	教育実習	
第7回	実習	教育実習		第22回	実習	教育実習	
第8回	実習	教育実習		第23回	実習	教育実習	
第9回	実習	教育実習		第24回	実習	教育実習	
第10回	実習	教育実習		第25回	事後指導	各自体験報告	
第11回	実習	教育実習		第26回	事後指導	問題点を抽出	
第12回	実習	教育実習		第27回	事後指導	問題点について議論	
第13回	実習	教育実習		第28回	事後指導	今後の課題を抽出	
第14回	実習	教育実習		第29回	事後指導	今後の課題について議論	
第15回	実習	教育実習		第30回	総括	これからの人生に教育実習を生かす	

評価方法及び評価基準	事前・事後指導出席点とレポート評価点（50点）と教育実習校返送評価点（50点）を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。
課題等	授業で指示します。
事前事後学修	事前指導は3回に分けて、(1)教育実習中の諸注意、(2)現場の教員による教育現場の実際を中心に行う。 事後指導は2回に分けて、(1)各自の教育実習の総括、(2)今後の教育現場の理想の姿を探索する。
教材 教科書 参考書	教育実習ファイル（事前指導初回に配布）
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、教育実習をしても単位を認定しないので注意すること。

科目名	教育実習(事前･事後の指導を含む)（高校）	科目コード	W61014	単位数	3単位	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	T-TLPR4-00.NK	時　間	90時間				
区分	資格関係科目	担当者名	佐々木　正晴・松橋　俊輔			授業形態	実習		オムニバス

授業の概要等	〔授業の主旨〕 〔キーワード：教育実習、現場体験〕 　中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では講義や現役教諭の講演を通して教育現場の理解を深め、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認する。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する
到達目標	事前指導においては教育実習が支障なく進むよう留意事項を確認する。事後指導においては、教育実習での反省点を話し合い、教育現場および実習生の指導上の問題点について議論を行う。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	事前指導	教育実習の意義		第16回	実習	教育実習	
第2回	事前指導	教育実習における留意点		第17回	実習	教育実習	
第3回	事前指導	現役中学校教諭による講話		第18回	実習	教育実習	
第4回	実習	教育実習		第19回	実習	教育実習	
第5回	実習	教育実習		第20回	実習	教育実習	
第6回	実習	教育実習		第21回	実習	教育実習	
第7回	実習	教育実習		第22回	実習	教育実習	
第8回	実習	教育実習		第23回	実習	教育実習	
第9回	実習	教育実習		第24回	実習	教育実習	
第10回	実習	教育実習		第25回	事後指導	各自体験報告	
第11回	実習	教育実習		第26回	事後指導	問題点を抽出	
第12回	実習	教育実習		第27回	事後指導	問題点について議論	
第13回	実習	教育実習		第28回	事後指導	今後の課題を抽出	
第14回	実習	教育実習		第29回	事後指導	今後の課題について議論	
第15回	実習	教育実習		第30回	総括	これからの人生に教育実習を生かす	

評価方法及び評価基準	事前・事後指導出席点とレポート評価点（50点）と教育実習校返送評価点（50点）を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。
課題等	授業で指示します。
事前事後学修	事前指導は3回に分けて、(1)教育実習中の諸注意、(2)現場の教員による教育現場の実際を中心に行う。 事後指導は2回に分けて、(1)各自の教育実習の総括、(2)今後の教育現場の理想の姿を探索する。
教材教科書参考書	教育実習ファイル（事前指導初回に配布）
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、教育実習をしても単位を認定しないので注意すること。

科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理	科目コード	W71004	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
		科目ナンバリング	W-KYT02-04.	時　間	30時間	学年		学期	
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	西沢　勝則 （実務経験のある教員）		授業形態	講義		単独
授業の概要等	〔授業の主旨〕 肢体不自由児・者の生理・病理について脳性まひを中心に概説し、その運動障害、行動と心理特性について触れ、 学習上や生活上の困難を克服・改善するための対応について検討する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。								
到達目標	肢体不自由は四肢体幹の永続的な障害をいうが、中枢神経系の障害である脳性まひ及び骨関節等の障害に関する生理・病理や行動、心理について学び、自立活動の充実など教育の在り方を考える基礎を身につける。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション 肢体不自由の概念と就学措置	授業の内容と進め方の説明、肢体不自由の語源と定義、障害の特性、高木憲次	
第2回	肢体不自由教育の歴史	肢体不自由教育の歴史、今日的課題	
第3回	運動機能の発達と障害	運動機能の発達、原始反射、歩行の獲得	
第4回	肢体不自由をもたらす疾患	脳性まひの運動・動作、身体の動き	
第5回	肢体不自由をもたらす疾患	二分脊椎、関節疾患、骨形成不全、進行性疾患	
第6回	障害の理解の方法	障害の一般的理解、個人の事例としての理解	
第7回	重複障害	実態把握、重度・重複障害児、健康の保持	
第8回	重複障害児の対人相互交渉	対人相互交渉の捉え方	
第9回	重度・重複障害児	重度・重複障害児の特性、指導に必要な工夫と配慮	
第10回	肢体不自由児の自立活動	自立活動の計画、課題・内容の設定、評価の視点	
第11回	肢体不自由児の自立活動	生活上の課題、学習上の課題、ポジショニング、教材・教具	
第12回	肢体不自由児の心理	肢体不自由児の社会性、コミュニケーション、認知・思考	
第13回	肢体不自由児の心理	肢体不自由児の心理・行動上の困難、障害受容、ADL	
第14回	肢体不自由教育の課題	肢体不自由教育の課題と考え方	レポート提出　発表
第15回	試験とまとめ	試験とまとめ	

評価方法及び評価基準	定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。
事前事後学修	各回の内容に応じて、関連する情報を各自整理すること。
教材教科書参考書	参考書　川間健之介　長沼俊夫　著　肢体不自由児の教育〔新訂〕放送大学教育振興会　2020 ISBN978-4-595-32171-9
留意点	障害の有無に拘わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にしてください。

科目名	病弱者の心理・生理・病理	科目コード	W71005	単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
		科目ナンバリング	W-KYT02-05.	時　間	30時間	学年		学期	
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	西沢　勝則 （実務経験のある教員）			授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 病弱とは、慢性疾患等のために継続して医療や生活規制を必要とする状態である。原因となる病気の種類も多様である。 主な病気の概要と、生活規制や行動制限のある場合の対応、そして心理的側面への配慮などについて概説する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。
到達目標	病弱の原因となる主な病気の概要や病弱児の心理的社会的な困難を理解し、病弱児の病気対処行動や学習上の課題等を克服・改善のための指導の在り方を考える。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション、病弱の概念	授業の内容と進め方の説明、病弱の概念	
第2回	病弱教育の捉え方	病弱教育に関する体験やイメージ	
第3回	病弱教育の変遷・教育課程	病弱教育の歴史、教育の内容、教育の方法	
第4回	病弱児の心理	病弱児の心理理解の視点	
第5回	主な病気の概要と教育支援	小児がん：白血病	
第6回	主な病気の概要と教育支援	アレルギー疾患：ぜん息	
第7回	主な病気の概要と教育支援	糖尿病	
第8回	主な病気の概要と教育支援	てんかん	
第9回	主な病気の概要と教育支援	精神性疾患	
第10回	病弱教育における情報化	病弱教育における情報化の意義と課題	
第11回	キャリア教育	キャリア教育の背景、病弱児の社会的自立とは	
第12回	病弱児と医療的ケア	重複障害児の実態把握、医療的ケア、自立活動の内容	
第13回	教育と医療・福祉等との連携	病弱児に関係する諸制度、多職種連携の在り方	
第14回	病弱児教育上の課題	課題の把握と今後の学習テーマ	レポート提出　発表
第15回	試験とまとめ	試験とまとめ	

評価方法及び評価基準	定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。
事前事後学修	準備学習時間の目安：1日当たり30分以上。課題発表担当の場合は1回につき準備時間2時間以上。
教材教科書参考書	参考書　日本育療学会編著　標準「病弱児の教育」テキスト　ジアース教育新社　2019 ISBN978-4-86371-493-9
留意点	病気・障害の有無に関わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にしてください。

科目名	病弱者教育論		科目コード	W71009	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
			科目ナンバリング	W-KYT02-09.						
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	山崎　誠悦			授業形態	講義		単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 特別支援学校教諭免許状取得に必要な履修科目である。病弱教育に関する基礎的内容を解説する。病弱教育の意義及び児童生徒の心理的特性や学習上の特性について解説する。病弱特別支援学校を中心に、教育課程の編成、個別の指導計画、 指導方法、指導上の留意点等指導・支援に関する基礎的・基本的事項を解説する。病弱教育対象の児童生徒の主な病気を取り上げ、児童生徒理解と教育的支援のあり方について理解を図る。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの２に関連し、カリキュラムポリシーの２に関連している。
到達目標	（１）病弱教育の対象となる病気と医療・教育的支援内容について理解する。 （２）病弱・身体虚弱児の心理的特性及び学習上の特性について理解する。 （３）病弱特別支援学校における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。 （４）病弱教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション 病弱教育の意義	各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。病弱と身体虚弱の定義について解説する。病弱教育の意義について理解を深める。	
第2回	病弱教育の歴史	日本における病弱教育の成立・発展過程を概観する。戦後の病弱教育に関する教育制度の整備状況を解説する。今日の病弱教育の現状と課題ついて考察する。	
第3回	就学先決定のあり方と教育の場	病弱教育対象の児童生徒の病気の種類の推移を概観する。就学先決定の仕組みと手続きを解説し、就学先決定のあり方について理解を深める。病弱・身体虚弱児に対する提供可能な教育機能について理解を深める。	
第4回	病弱・身体虚弱児の心理的特性	病弱・身体虚弱児に見られる悩みや不安等を取り上げ、心理・行動面の特徴的な状態像について理解を深める。発達段階から見た心理社会的問題点について考察する。	
第5回	病弱特別支援学校における教育課程の編成	教育課程の意義及び教育課程に関する法令や基本的な要素を解説する。病弱特別支援学校における教育課程の具体例を紹介し、教育課程の編成について理解を深める。	
第6回	病弱教育における各教科の指導	各教科の指導にあたり、児童生徒の学習上の特性、指導目標の設定、指導内容の精選、指導計画の作成、指導上の留意点について解説する。病弱・身体虚弱児に対する教科指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。	
第7回	病弱教育における自立活動の指導	自立活動の指導にあたり、実態把握、指導目標の設定、指導内容の選定、指指導計画の作成、指導上の留意点について解説する。自立活動の指導に関する基礎的・基本的事項について理解を深める。	
第8回	病弱教育におけるキャリア教育 及び進路指導	病弱教育におけるキャリア教育及び進路指導について解説する。病弱特別支援学校高等部における就労体験等を含む職業教育の具体的取り組み、卒業後の追指導や関係機関との連携・支援について理解を深める。	
第9回	白血病の児童生徒の理解と教育的支援	白血病の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	
第10回	ネフローゼ症候群の児童生徒の理解と教育的支援	ネフローゼ症候群の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	
第11回	気管支ぜんそくの児童生徒の理解と教育的支援	気管支ぜんそくの児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	
第12回	単純性肥満の児童生徒の理解と教育的支援	単純性肥満の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	
第13回	筋ジストロフィーの児童生徒の理解と教育的支援	筋ジストロフィーの児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	
第14回	心身症の児童生徒の理解と教育的支援	心身症の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	
第15回	重症心身障害児の理解と教育的支援	重症心身障害児の一般的特徴や状態像について概説し、重症心身障害児の理解を深める。医療的ケアの取り組みについて解説する。各教育の場における学習や生活指導等に関する教育的支援について理解を深める。	

評価方法及び評価基準	評価は、定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合評価（１００点，100%）をする。 定期試験５０点，５０％　病弱教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の方途に関する修得状況について評価する。 課題レポート３０点，３０％　授業後に出題する課題について、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。 授業への参加度２０点，２０％　授業への参加度について評価する。
課題等	授業後に出題する課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。
事前事後学修	各回の授業について、授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。 授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。病弱教育に関する基本的内容の習得をめざす。
教材教科書参考書	宮本信也・土橋圭子編集　『病弱・虚弱児の医療・療育・教育　改訂３版』，金芳堂 ISBN:978-4-7653-1627-9
留意点	今日のインクルーシブ教育のシステム構築をめざした特別支援教育の取り組みの中で、病弱・身体虚弱児個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の修得に努めてください。保護者理解及び生命倫理、人生観などについて考えて欲しい。 授業中に紹介する関連図書を調べ病弱教育の理解を深めてください。

科目名	聴覚障害者教育総論		科目コード	W71011	単位数	1単位	対象	3年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-KYT01-11.	時　間	16時間	学年		学期	
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	立花　茂樹 （実務経験のある教員）			授業形態	講義		単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 聴覚障害特別支援学校における教育を中心に、聴覚障害教育の制度や歴史および現状、聞こえの仕組みやその障害、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について理解する。そのうえで、聴覚障害の早期発見と保護者支援、聴覚障害教育における教育課程や指導方法等についての学びを深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの２及びカリキュラムポリシーの１に関連する
到達目標	１　聴覚障害教育の歴史を、聴覚障害教育に尽くした人物と主な業績および指導方法の変遷から説明することができる。 ２　聞こえの仕組みとその障害、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について説明することができる。 ３　聴覚障害児教育の教育課程や指導方法の概要等について説明することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	聴覚障害児教育の歴史	聴覚障害児教育の発展に尽力した人々とその業績、指導方法の変遷等を通して我が国聴覚障害教育の歴史を理解する	毎回の授業終了時に予習シートを配布する
第2回	聞こえの仕組みと障害の種類	聞こえの仕組み、障害を受けた部位による聴覚障害の分類とその特徴、障害による聞こえの型について理解する	
第3回	障害の早期発見と保護者支援	聴覚障害の早期発見と保護者支援の必要性を理解するとともに新生児聴覚検査法について理解する	小テスト1
第4回	オージオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法および補聴器の取扱い	オージオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法について理解し、四分法で平均聴力を算出する 補聴器の保守について理解する	
第5回	聴覚障害者の言語の獲得と言語使用の特徴	聴覚障害であることによる言語の獲得の困難と言語使用の特徴について理解する	小テスト2
第6回	聴覚障害とコミュニケーション	聴覚障害児の指導で用いられている手話、筆記、聴覚口話、指文字、キューサイン等のコミュニケーション手段の長所と短所を理解する	
第7回	聴覚障害教育の教育課程	聴覚障害特別支援学校(小～高等部)における教育課程編成の基本的な考え方と各教科等の指導の工夫について理解する	小テスト3
第8回	聴覚障害教育における自立活動	聴覚障害教育における自立活動の内容と指導上の留意事項について理解する	小テスト4

評価方法及び評価基準	○予習シートの作成20%、小テスト40%、レポート課題40%の割合で評価する。 ・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。 ・小テスト：講義開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・レポート：「聴覚障害教育と手話」に関するレポート（1200字程度）により評価する。 ※予習シート及びレポートは、別途配布する評価基準表により評価する。
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。
事前事後学修	予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。
教材教科書参考書	教科書：用いない。 随時、資料を配布する。
留意点	特別支援学校小・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説（総則等編・自立活動編）は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。

科目名	重複障害者教育総論	科目コード	W71012	単位数	1単位	対象学年	3年	開講学期	後期
		科目ナンバリング	W-KYT01-12.	時　間	16時間				

区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	立花　茂樹 （実務経験のある教員）	授業形態	講義	単独

授業の概要等

〔授業の主旨〕

障害が重複し、重度である障害児であっても、それぞれに多様な教育的ニーズを抱えていることを理解し、学校教育として何を目標に、どのような内容・方法で教育・支援を行っていくべきかを学ぶ。講義に加えて、重複障害、重症心身障害児の日常を記録したドキュメンタリー映画等の視聴を通して、重複障害の特性と実態把握、心理と教育課題、さらには医療や福祉との連携の大切さについて学ぶ。

〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕

ディプロマポリシーの２及びカリキュラムポリシーの１に関連する

到達目標

1　重複障害の定義を説明できる。
2　重複障害児に対する教育の現状、重複障害者等に関する教育課程編成の取扱いの概要を説明できる。
3　重複障害児の障害状況に応じた課題学習と具体的指導方法を選択することができる。
4　教育と医療や福祉との連携の必要性を説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容		備考
第1回	重複障害の定義と関連する用語	学習指導要領に示す重複障害の定義を理解する 重度・重複、重症心身障害等関連用語を理解する		毎回の授業終了時に予習シートを配布する
第2回	障害の重複・重度化の現状	障害の重複・重度化の現状と教育の場を理解する	ＤＶＤ「盲ろうの教育」視聴	小テスト１ 視聴レポートを課す
第3回	「盲ろう」の疑似体験	盲ろう者とその介助者役の両方を体験することを通して、重複障害者の心理と支援の基本を理解する		視聴レポートの提出 疑似体験レポートを課す
第4回	重複障害児のコミュニケーション	発信行動と受信行動の考えを基にした重複障害児のコミュニケーションの定義とコミュニケーション関係を築くための基本的な係わり方を理解する		
第5回	重複障害児の教育課程	重複障害児に対する教育課程の編成（訪問教育を含む）の基本的な枠組みを理解する		小テスト２
第6回	重複障害児の指導	指導課題の設定と指導内容・方法―「感覚と運動」「学習・概念行動」・「記号操作」―を知る		小テスト３
第7回				
第8回	医療的ケアの現状と課題 まとめ	特別支援学校等における医療的ケの基本的な考え方と実施体制の在り方を理解する 重複障害児の指導において大切にしたい視点を整理する		小テスト４

評価方法及び評価基準

○予習シートの作成20%、小テスト40%、レポート40%の割合で評価する。
・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。
・小テスト：授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。
・レポート：ドキュメンタリー映像の視聴レポート及び盲ろうの疑似体験レポートにより評価する。
※予習シート及びレポートは、別途配布の評価基準表により評価する。

課題等

返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。

事前事後学修

予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。
復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。

教材教科書参考書

教科書：用いない。
　　随時、資料を配布する。

留意点

特別支援学校小・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説（総則等編・自立活動編）は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。

科目名	発達障害者教育総論	科目コード	W71013	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	W-KYT01-13.						
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	立花　茂樹 （実務経験のある教員）		授業 形態	講義		単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 ＡＳＤやＬＤ、ＡＤＨＤ等の発達障害について、それぞれの障害の定義や障害特性を理解する。また、障害に関連するさまざまな問題点とその解決の方向性を探る。 講義形式の授業であるが、可能な限り予習シートに基づく協議を取り入れる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2及びカリキュラムポリシーの1に関連する
到達目標	1　発達障害の定義と障害特性について説明することができる。 2　発達障害を有する生徒への基本的な教育的対応と支援について説明できる。 3　発達障害とその関連するさまざまな状況を理解し、解決に向けた自身の考えを述べることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	特別支援教育と発達障害	「特別支援教育の推進」に示す特別支援教育の理念を理解する 特別支援教育で新たに指導の対象となった発達障害について知る	毎回の授業終了時に予習シートを配布する
第2回	ＡＳＤ（自閉スペクトラム症）の理解と支援	「自閉症」という概念と、その原因にまつわる歴史的経緯	
第3回		自閉スペクトラム症の定義と障害特性を理解する	
第4回		ＴＥＡＣＣＨプログラム、構造化、視覚的情報の活用等を中心とした自閉スペクトラム症の生徒への教育的対応を考える	
第5回	ＬＤ（学習障害）の理解と支援	ＬＤ（学習障害）の定義と障害特性を理解する	小テスト１
第6回		難易度を考慮した課題提示、スモールステップ化など学習障害の学習・行動特性に応じた教育的対応を考える	
第7回	ＡＤＨＤ（注意欠如・多動症）の理解	ＡＤＨＤ（注意欠如・多動症）の定義と障害特性を理解する	小テスト２
第8回		ソーシャルスキルトレーニング、環境調整などＡＤＨＤの生徒への教育的対応を考える	
第9回	発達障害児に見られる感覚と運動の問題	感覚の過反応や運動面の不器用さから学校生活の困難と自尊心の低下を招くことがある。その特性を理解し教育的対応を考える	小テスト３
第10回	二次的な障害の理解と予防	二次的な障害とはどのようなことか、また、その予防的な取り組みに向けて、学校教育の中でどのような指導や支援が必要かを考える	
第11回	高校通級の現状と課題	高校における「通級による指導」の導入の経緯と現状を知り、現在抱える問題点の解決のためのアイデアを考える	レポート課題の提示
第12回	校内体制の確立と関係機関の連携	校内委員会の役割と特別支援教育の全体計画の立案など、校内指導体制の確立と関係機関との連携の在り方を理解する	
第13回	個別の教育支援計画と個別の指導計画	個別の教育支援計画と個別の指導計画の違いとその策定・作成の手順を理解し、個別の指導計画の作成を経験する（演習）	演習資料の提出
第14回	インクルーシブ教育の現状	合理的配慮と基礎的環境整備の現状とインクルーシブ教育システム構築の課題を理解する	レポートの提出
第15回	保護者との連携と支援連携・協働	発達障害児の生活の質向上を目的とした連携・協働のあり方を探る	小テスト４

評価方法及び評価基準	○予習シートの作成20%、小テスト40%（小テスト30% + 演習課題10%）、レポート40%の割合で評価する。 ・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。 ・小テスト：授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・レポート：「インクルーシブ教育システム、二次的な障害、合理的配慮」をキーワードに「発達障害を有する生徒の学校生活」に関するレポート（1200字）により評価する。 ※予習シート及びレポートは、別途配布の評価基準表により評価する。
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。
事前事後学修	予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備えること。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。
教材教科書参考書	教科書：用いない。 随時、資料を配布する。
留意点	特別支援学校小・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説（総則等編・自立活動編）は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。

科目名	教育実習（特別支援）		科目コード	W71014	単位数	3単位	対象学年	4年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-KYT03-14.	時　間	45時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	立花　茂樹 （実務経験のある教員）			授業形態	実習		単独

授業の概要

〔授業の主旨〕

○前期は特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編を読み、大綱的な基準である学習指導要領等の記述の意味や解釈などの理解を深め、創意工夫を生かした教育課程の編成について考える。併せて、主に知的障害のある生徒の学習指導について、学習指導案の作成と模擬授業を通して考える。
○後期は、学生自身が設定した特別支援教育に関するテーマを追究し、その成果をレポートにまとめる。

〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕

ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの4に関連する

到達目標

1　特別支援学校学習指導要領解説を読み、学習指導要領に示された記述の意味や解釈などを理解する。
2　知的障害のある生徒の実態を踏まえた学習指導案の作成と模擬授業を実施し、特別支援学校における学習指導について理解を深める。
3　特別支援教育に関する研究主題の設定から研究報告までの一連の活動を進めるための基本事項を修得し、卒業研究につなげる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	オリエンテーション	演習の進め方について説明する		第16回	学生個々のテーマと研究計画の設定	夏季休業中に各自のテーマと研究計画を構想し、意見交換を通して個人テーマと研究計画を確定する	
第2回	（1）特別支援学校学習指導要領の理解	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説の総則編の通読とメンバー同士の話し合い活動を通して、特別支援学校学習指導要領の理解を深める。		第17回			
第3回				第18回	テーマの追究	研究計画に基づく、学生一人一人のテーマ追究を行う	
第4回				第19回			
第5回				第20回		テーマ追究の進捗状況の報告と意見交換を行う	
第6回				第21回			
第7回				第22回			
第8回				第23回			
第9回				第24回	レポート作成	研究成果のまとめとレポート作成を行う	
第10回				第25回		レポート概要の報告と協議を行う	
第11回				第26回		レポートを修正する	
第12回	（2）学習指導案の作成と模擬授業	学習指導案作成の意義、役割等を確認したうえで、知的障害児を対象とした学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。		第27回		レポート概要の報告と協議を行う	
第13回		学習指導案の事前検討、模擬授業後の検討会を行い、知的障害教育の授業のあり方を考える機会とする。		第28回		レポートの最終稿を作成する	
第14回				第29回	発表会準備	プレゼンテーション資料の作成と発表リハーサルを行う	
第15回				第30回	発表会	研究成果発表と質疑応答を行う	

評価方法及び評価基準

○演習への参加状況 30%、学習指導案の作成と模擬授業20%、レポート・発表 50%で評価する。
・演習への参加状況は、主体的な授業参加の姿勢に加えて、企画力、課題発見力、情報活用能力などを中心に評価する。
・レポートは、課題設定の着眼点、文章構成と文章力、論理性について評価する。
　演習への参加状況、レポートの評価は、別添の評価基準表により行う。　※欠席は１回につき2点を減ずる。

課題等

レポート集を作成するので、できるだけパソコン等を用いて作成し、電子データの提出に協力してほしい。

事前事後学修

予習：課題図書の指定箇所をよく読み、自身の考えを持って授業に臨むこと。また、発表担当者は責任をもってレジュメを作成し、ゼミ当日の昼までにチームズのクラスの「ファイル」に提出すること。
復習：授業で出された課題や疑問点について、自身の考えをまとめること。

教材教科書参考書

教科書：文部科学省（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』 開隆堂 ISBN978-4304042294
　　研究方法やレポートの執筆方法等については、適宜資料を配布する。

留意点

授業時間外におけるメンバー間の討議や、オフィスアワーを利用して教員に相談するなど、積極的に課題追究を行うように心がけてほしい。